



オムロン太陽と連携授業

亀川小学校

別府市内竈
志賀貴代美校長・354人



本年度の第4回手話教室。ゲームをしながら手話学ぶ4年生=6日午後、別府市の亀川小

学校での手話教室（全4回）は恒例授業。「家でも指文字で会話することがある」（4年生）など、着実に浸透している。

今年の4年生は自らテーマを絞り、優しいまちづくりについて探究した。UD（太陽の家や立命館アジア太平洋大が近くに立地する、多様性あふれる地域の意識を育むため、福祉的な活動に力を入れている。障害者を理解する機会を増やすため、3、4年生は太陽ミュージアムやオムロ太陽を訪れ、当事者のスポートや仕事、生活に触れる。7年前に始まったオムロン太陽との連携授業は他学年にも広げた。同社が得意な電気や経済などの分野を障害のある社員から教わり、心のバリアフリーを向上させる。誰でも利用できるユニバーサルデザイン（UD）についても学ぶ。

志賀校長の話 地域交流を通じて共生社会の意識が高まってきた。分け隔てない視点で行動できる子どもを育てていきたい。

地域交流、共生意識育む
(和田礼子)

福祉優秀校 大分合同新聞賞

大分合同新聞社と大分合同福祉事業団が福祉教育に熱心な学校を顕彰する「福祉優秀校・大分合同新聞賞」の第36回受賞校が決まった。各校の活動を紹介する。

◇上◇

太陽の家や立命館アジア太平洋大が近くに立地する、多様性あふれる地域の意識を育むため、福祉的な活動に力を入れている。障害者を理解する機会を増やすため、3、4年生は太陽ミュージアムやオムロ太陽を訪れ、当事者のスポーツや仕事、生活に触れる。7年前に始まったオムロン太陽との連携授業は他学年にも広げた。同社が得意な電気や経済などの分野を障害のある社員から教わり、心のバリアフリーを向上させる。誰でも利用できるユニバーサルデザイン（UD）についても学ぶ。

学校での手話教室（全4回）は恒例授業。「家でも指文字で会話することがある」（4年生）など、着実に浸透している。

他にも各種の活動を通じて住民とのつながりを深めている。地域の交通安全運動に合わせて自校でいさせ運動（月2回）を実施。クラブ活動では住民がITや華道などを教える。6年生は卒業前に校区内の全14公民館を清掃したり、メッセージで感謝を伝えたりしている。

（10）は「障害のある人を私たちと違う人だと勝手に思っていた。意識が変わった」、ベルガー杏奈さん（10）は「一方的にお世話をどう考えはダメ。助け合っている意識が大事」と話す。

（10）は「障害のある人を私たちと違う人だと勝手に思っていた。意識が変わった」、ベルガー杏奈さん（10）は「一方的にお世話をどう考えはダメ。助け合っている意識が大事」と話す。



問①～⑤について、記事を読んで答えましょう。問⑤は自分で考えてみましょう。

〔問①〕亀川小学校ではどのような目的で福祉的な活動に力を入れていますか。

答え【年齢や障害にかかわらず「共に生きる」社会意識を育むため】

〔問②〕オムロン太陽との連携授業では、同社の社員から教わることでどのようなことを学んでいますか。下の文章の＜　＞にあてはまる適切な言葉を記事の中から探して書き出しましょう。

答え【心のく バリアフリー ＞を向上させ、誰でも利用できる
＜ ユニバーサルデザイン（UD） ＞についても学んでいる】

〔問③〕亀川小4年生の今年の探究テーマは何ですか。

答え【優しいまちづくり】

〔問④〕志賀校長先生は地域交流を通じてどういう子どもを育てたいと言っていますか。

答え【分け隔てない視点で行動できる】 子どもを育てていきたい

〔問④〕あなたの学校ではどのような地域交流活動を行っていますか。または、これから地域や住民とのつながりを深めるために、どのようなことをやっていきたいと思いますか。

※自由記述